

日本ウィニコット協会 Newsletter

Vol.13 2024

目次

ウィニコット・フォーラム 2024「遊ぶこと playing 再考」	1
「ウィニコット研究」投稿募集.....	3
協会からのお知らせ	6
編集後記.....	8

ウニコット・フォーラム 2024

遊ぶこと playing 再考

本年度のウニコット・フォーラムのテーマは、「遊ぶこと playing 再考」です。

20世紀のウニコットが生きていた時代から、文化の発展や広がりもあり、遊びの選択肢が増えたり、質が変わったりしているように思います。自然環境なども変わりつつあるようです。いつの間にやら、ネットやデジタルコンテンツが身の回りにあふれているかのようです。

この現代、取り合えず令和の日本において、我々や子どもたちは遊ぶこと playing ができているのでしょうか？すなわち小児科医であり精神科医でもあったウニコットが、現実世界と内的世界の間領域に見出した、遊ぶことが出来ているのでしょうか。それは想像的、創造的な体験を伴います。楽しいことも悲しいこともあるでしょうが、それは豊かな体験であり、こころを元気にしてくれるものです。

そう考えるとこの遊ぶことは、必ずしも子どもの遊びという現象にとどまらず、我々が仕事をするとき、研究をするとき、そして少年や青年が学ぶときの体験にまで及んで考えることができそうです。もちろん生活の全般にも及んで考えることが出来ると思います。

「社会に、むなしさを表面的におさめるシステムが広がっている」（北山修，2024）ように思います。人間にはそのむなしさを、表面的におさめることにとどまらずに噛みしめることが、自らの人生という物語をよりよく紡いでいく上では大切なことではないかと思うのです。今や我々全員が、このシステムに取り囲まれつつも首をひねり、取り込まれてしまわないようにと何とかしのいでいるのかもしれない。

楽し気なことや刺激的なことの選択肢も増え、面白おかしく生活しているように見える人も多いと思います。とはいえ、ウニコットが言うような意味での遊ぶこと playing が出来ているのだろうかということをあらためて問い直してみたいと考えた次第です。「だからこそ」でしょうか。

フォーラムは三部構成です。

【第一部】 講義「遊ぶことについてウニコットが考えていたこと」

講師：山崎 篤（JPS 精神分析的療法家センター）

【第二部】 講演「デジタル化する日本社会と子どもの遊び」

講師：生地 新（まめの木クリニック・四谷サイコセラピー研究所）

【第三部】 シンポジウム「遊ぶことについて、令和時代の臨床現場で考える」

シンポジストの先生方に、各々が臨床に携わっておられる現場から、今回のテーマに沿ってご発表頂く予定です。シンポジストとタイトルは以下の通りです。

「子どもを取り巻く社会と遊びの変遷」 渡邊 恵里 (川谷医院)

「遊び play と、遊ぶこと playing-トーマス・オグデンの存在論的精神分析について-」

柴田 俊祐 (川谷医院)

「オンラインで繋がる遊ぶことと現実」

池 志保 (福岡県立大学人間社会学部)

指定討論 川谷 大治 (川谷医院)

今回はオンラインではありますが、視聴者も交えて、公開討論していきたいと考えております。まずは我々自身が遊ぶことが出来ているのだろうか？という自己点検から入ることになればよいかと考えた次第です。

実行委員長 山崎 篤

記

日時：2024年11月23日(土・祝)

会場：オンライン

※詳細は追って当協会HPに掲載していきます

「ウニコット研究」投稿募集

「ウニコット研究」投稿募集

当会では、日本ウニコット協会雑誌「ウニコット研究」を発刊いたします。投稿論文の募集も開始いたしますので、下記の投稿規定をご参照ください。なお、投稿規定は協会HPにも掲載しております。会員の先生方からの積極的な投稿をお待ちしております。

日本ウィニコット協会「ウィニコット研究」投稿規定

1. 投稿資格

投稿は原則として、日本ウィニコット協会正会員、顧問に限る。

2. 投稿条件

論文内容は未刊行のものに限る。

3. 採否

論文の採否、掲載順などは編集委員会が決定する。

4. カテゴリー

投稿する論文のカテゴリーは以下の通りである。

論考：ウィニコットや独立学派精神分析の実践や芸術，その関連領域における，理論，概念，歴史や文化的背景などについての著者独自の見解を提起する論考。12,000字以内を目安とする。

総説：特定の主題についての学問的動向を遠望し，筆者独自の論考を示した論文。12,000から28,000字以内を目安とする。

原著：個人・集団の心理療法や心理検査による臨床研究，観察研究，質的研究，実証研究，また文化や芸術領域等における論考であり，独立学派精神分析とその関連領域についての著者独自の主張が提起されている論考。12,000字以内を目安とする。

著者は投稿の際，掲載を希望するカテゴリーを表題の前に明記すること。

5. 図表

図表，写真などは図1・表1と順序を付け，それぞれに和文で題をつける。文字数の制限に図表は含まない。

6. 原稿の作成

原稿はワードプロセッサを用いて作成する。A4用紙に横書き，40字×40行を目安に原稿を作成すること。

7. 外国語の表記

人名，地名等の固有名詞は原則として原語を用いる。

(例：Winnicott, D, W / Freud, S / London)

8. 引用

文献の主著者のアルファベット順に番号を付し、本文中にその番号を適当な個所に付す。肩付きで (1) (2) のように記載する。本文の末尾に「文献」という表題にて文献リストを付し、文献を番号順に記載する。各文献は、雑誌に掲載された文献については、著者名、発行年、題名、誌名、巻、ページの順、単行本の場合は、著者名、発行年、書名、出版社名、発行地の順に掲載する。

(例)

(1) 妙木浩之 (2021) : Laplanche の「謎のメッセージ」. 精神分析研究 65 (4) , 369-375

(2) Bollas, C. (1979) : The Transformational Object. International Journal of Psychoanalysis 60, 97-107

(3) Patrick Mahony. (1987) : Freud as a Writer. Yale University Press. 北山修監訳 (1996) : フロイトの書き方. 誠信書房, 東京

(4) Winnicott, D. W. (1968) : The use of an object and relating through cross identification. In Winnicott, D. W. (1971) : Playing and Reality. Basic Books, New York. 橋本雅雄訳(1979) : 遊ぶことと現実. 岩崎学術出版社, 東京

9. 表題等

表題、著者名、著者所属、5語以内のキーワードをつける。

10. 要約

原著については、本文はじめに 800 字程度の邦文要旨を付す。

11. プライバシー

クライアントのプライバシーに十分配慮せねばならない。臨床研究においては、その情報は修飾することとし、経過の詳細等よりも主張の独自性を重視する。

12. 投稿の方法

投稿の際は、論文の電子データを（原則として Microsoft の Word 形式）を電子メールの添付ファイルとして、日本ウイニコット協会事務局（jwasecretariat@gmail.com）宛てに送信する。

協会からのお知らせ

研修会・協会共催事業のご案内について

日本ウニコット協会では、ウニコットおよび独立学派に関する研修会や、協会共催事業を会員の皆さま宛てにご案内させていただいています。

つきましては、会員の先生方が主催されている研修会などで、会員の皆さまにご案内したい内容がございましたら、協会事務局宛てにメール【jwasecretariat@gmail.com】にてご連絡ください。理事会にて審議の上、承認された場合、協会ホームページの「研修会情報」への掲載と、メーリングリストでの配信をさせていただきます。

なお、メールの件名を「研修会（協会共催事業）掲載希望」とし、本文に研修会の詳細をご記入ください。フライヤーの画像データやPDFなどがあれば、そちらも添付していただければ掲載いたします。

協会からのお知らせ

2023 年度分年会費納入のお願い

2023 年度（2023 年 4 月～2024 年 3 月）の日本ウニコット協会の年会費の納入についてご案内いたします。納入会費は下記のとおりですので、まだお振込みでない方は、下記口座に振込をお願いいたします。

記

○年会費：5,000 円

○納入方法：銀行振込（送金手数料は自己負担でお願いします）

振込先：りそな銀行上六支店

口座番号：普通口座 0370321

口座名義：日本ウニコット協会

*必ずお名前をご明記ください。

*職場名義での振込み等される方は、ご一報くださるようお願いいたします。

ご不明な点がございましたら、協会事務局までご連絡ください。

編集後記

今年度のウイニコット・フォーラムは、遊ぶこと再考というテーマで開催されます。ウイニコットをよく知らない人でも、ウイニコットといえば、遊ぶことというくらいには有名で、キャッチーな概念ですね。しかし、自分がそれを理解しているのか、そして私は遊ぶことができるのか、と問われると口をつぐんでしまうようなとても難しいものだと思います。『遊ぶことと現実』を何度読んでも、理解が変わり、わかったと思っても、やっぱりわからないと思うのを繰り返すようなそんな概念です。カーテンとカーテンが重なる瞬間のように、あるいは、先日見た映画の木漏れ日の表現のように、その瞬間しかとらえられない何かなのかもしれません。遊ぶことという概念で遊ぶ時間になることを楽しみにしています。詳細などについては、随時当協会 HP に掲載していきますので、そちらもご確認いただければと存じます。

(奥田 久紗子)

2024年6月6日

日本ウイニコット協会 Newsletter vol.13

編集：石田 拓也

奥田 久紗子

発行：日本ウイニコット協会

日本ウイニコット協会事務局

e-mail：jwasecretariat@gmail.com

HP：https://winnicottforum.com

〒543-0001

大阪府大阪市天王寺区上本町6丁目6-26 上六光陽ビル601

たちメンタルクリニック・上本町心理臨床オフィス内
